

## 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

### 保幼小連携専門部会通信（第3号）

令和5年10月16日（月）に、第3回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会保幼小連携専門部会を開催いたしました。

部会の様子をお知らせします。

#### 第3回の主な内容



1. これまでの部会での主な意見を踏まえた議論の方向性
2. (仮称) 架け橋ブロックの編成について
  - ア. グルーピング組織の名称
  - イ. 今後のスケジュール
3. 保幼小交流事業の事業例(アンケート内容)の検討( )
4. 交流推進ツールの検討( )
5. 次年度の研修内容について

(※) …グループワーク



#### 専門部会とは



「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したものの。



## ○検討

- ・グループ組織の名称について

連携園が決まっている方が取り組みやすいということで、連携ブロックの名称についてご意見をいただいた結果、「架け橋ブロック」で一致しました。



- ・保幼小交流事業の事業例について
- ・交流推進ツールについて

部会員を2グループに分けグループワークの手法により意見を出し合っていました。

各グループで出された意見



### Aグループ

- (1) 小学校が運動会の練習をする時にその様子を見せてもらう
- (2) 秋遊び(例: どんぐりや落ち葉拾いをして製作をする)
- (3) 「おもちゃらんど」等の何かを一緒に作るような交流
- (4) 国語の授業の一環として、作るときには小学校の先生の説明を聞く
- (5) 就学前施設の子どもの人数が多い時は、小学校のクラスごとで分けて受け入れる体制をとる
- (6) 体育館は学年によって使える日時が決まっているため、いつでも使用できるわけではない
- (7) まずは先生同士の交流から始めることで交流事業がスムーズに行く



### Bグループ

- (1) 必ずしも交流の対象を小学生としない交流の仕方
- (2) 児童会のおまつりなど、イベントを通じて小学校の環境に触れる、見る、体験する(例: トイレの体験)
- (3) 小学校の先生との交流により、少しでも顔を知っている先生がいるという経験
- (4) 多くの就学前施設の子どもたちを受け入れる場合、小学校側の体制の確保が必要
- (5) 半日入学と交流事業の違いを明確にする必要がある
- (6) 先生同士が年間を通じて気軽に連絡がとれる関係づくりが大事
- (7) 各ブロックを取りまとめる中心となる存在が必要
- (8) 安全面にも十分な配慮をしつつ、各ブロックでできることから取組を進める





## (仮称)乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして(仮称)乳幼児教育・保育支援センターを設置する。

## 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、宇治市乳幼児教育・保育推進協議会を設置する。

